



7/31 中学校国語科研修講座の概要を紹介します！

「生徒が『本気・夢中』になる国語の授業づくり」

お茶の水女子大学附属中学校 副校長 宗我部 義則 先生



生徒が「本気・夢中」になって言語活動を楽しむ中で、言葉によるものの見方・考え方を深め、言葉の実践力を高める授業をどのようにデザインしていけばよいのかを、ICT活用も踏まえ、楽しくご教授いただきました。また、個々の授業実践を俯瞰的に振り返る機会を得るとともに、2学期からやってみようと思える魅力的な手立てもたくさん教えていただきました。「本気・夢中を引き出す魅力的な言語活動」に必要な3つのポイントを中心に研修講座での学びを紹介します。

①「国語科は実技教科！」

自分自身で、仲間と協力して、
ことばで
目標を達成できる。
課題を解決できる。

- ・話して伝えられる
- ・書いて表せる
- ・聞いて判断できる
- ・読んで考えられる

②課題発見は「比べる」から

本気・夢中を引き出す
魅力的な言語活動

③ICTを「活かす」

- ・共有に
- ・比較に
- ・収集に
- ・創造に
- ・協働に
- ・習得に
- ・蓄積に
- ・表現に

チェック

StuDX Style
GIGAスクール構想を推進させ 学びを豊かに変革していくカタチ

具体的に

さらなる深い学びに…

研修後のご質問について、宗我部先生にご回答いただきました。



Q1. 単元のゴールを子ども達に示したとき、単元にかける時間等も子ども達に示すのか教えていただきたい。

A1. 導入で関心をぐっと高めたあと、学習の見通しを示すのが良いと考えます。この中で展開の仕方や各時間の時間数も説明します。

Q2. 「楽しさ」と授業で付けるべき「資質・能力」とをいかに両立させていくか。教師が引っ張る部分と生徒に委ねる部分のバランスの取り方を教えていただきたい。

A2. 生徒たちが単元の中心となる学習課題や言語活動に取り組む中で、習得を目指す資質・能力を確実に使っていくように（使わなければ達成できない位に）、学習課題や言語活動とねらいとする資質・能力とがしっかり結びつくようにするというのが答えです。

楽しさと知識・技能や資質・能力の習得とが別物だと考えてしまいがちです。そうではありません。知識技能や資質能力の活用の場である学習課題や言語活動そのものをより楽しんで取り組めるように工夫するのです。

「楽しくするための工夫」を「手立て」として随所に盛り込むことで、習得を目指す資質・能力を使う言語活動への意欲が高まり、それによって能力も身につくし、また「楽しかった」と振り返れることが、成功体験として能力の定着を促すのだと考えてみてください。（知識やスキルの習得と言語活動とが分裂することのないように気を付けて）

Q3. 教材文をたくさん読む場面や言語活動の準備時間は授業の中でどのように確保しているのでしょうか。（単元計画）

A3. 鑑賞する短歌の候補を探す時間を、授業時間内に、ほぼ1時間生徒たちに確保しています。準備時間というのが何をイメージしているのかと思いますが、例えば講座でお話した「短歌の鑑賞」の授業の場合、以下の通りです。

- ・鑑賞する短歌を探す時間＝授業時間内に1時間弱（休み時間等も自由に探せるようにブックコートを廊下に。）
- ・鑑賞のポイントをつかむ時間＝授業時間内
- ・観点に沿って鑑賞の言語化をしていく時間＝授業時間内

という状況です。



受講者の声

国語は実技教科であるということが、私の心に響いた。もっともっとたくさんの時間、お聞きしたかった。

評価を交えながら詳細に教えてくださったので、生徒と一緒に挑戦してみたいと思う言語活動がたくさんあった。

生徒が夢中になって楽しいと感じる授業をするためには、実態に応じた丁寧な準備が欠かせないのだと感じた。

ICTの活用について見聞が広がり活用意欲が湧いた。

《問い合わせ》
研修課 0770-56-1302